

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	いいとよ			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 18日		～	令和 7年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 18日		～	令和 7年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・一人一人、個々の特性を把握して適切であろうとする課題や園外活動、室内室外での経験、体験を支援されているところ。 ・体験活動が多く、利用児が経験する機会が多くある。	・表情は園児に見えるように。視線の位置などを考えて喜怒哀楽を見せる関わり。 ・利用児の成長やできるようになったことをもとに、職員が提案を出したり、日常の会話から「〇〇してみたい」と考えが増えている。	・実践とフィードバックを繰り返し行い、納得した支援ができるようにする。 ・地域との交流を意識した活動の企画立案を行う。
2	・関わる支援者が研修や日々の関わりの中で、学ぶ気持ちを強く持ちながら、対応している。 ・職場の雰囲気がいい。質問や相談ができる関係。	・支援のポイントでわからない時に、他の職員へ質問をする。 ・朝礼の中で、体調や職員の動きなどを共有することで、働きやすい状況になっている。	・園内研修などを引き続きおこなう。テーマについては、参加者にアンケートをとるなど、ニーズの把握を行いながらその都度必要な知識をフィードバックする。
3	・保護者、園児への支援対応が職員全員統一している。	・課題遊び等は、児発管の指示のもと理解して取り組んでいる。 ・正職、パート関係なく、送迎や登園降園時の対応をすることで統一した関わりが持てる。	・その子理解や行動分析できるよう、フィードバックやその都度確認を行いながら支援を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の知識量の格差が大きい。	実践経験と知識の量が、新規の事業ということもあり足りていない。	研修や、その日の振り返りなどこまめに行いながら、実践と知識との結びつけを行う。
2	放課後等デイサービスがない。	小学校へ就学後の居場所の確保や、支援の継続性。	サービス切り替えのタイミング時に対象児童の情報共有を利用先の放デイへ引き継ぐ。
3			